

第七十三回帝國議會  
衆議院

# 恩給金庫法案外一件委員會會議錄(速記)第二回

付託議案  
恩給金庫法案(政府提出)  
恩給法中改正法律案(政府提出)  
庶民金庫法案(政府提出)  
無盡業法中改正法律案(政府提出)

會議

昭和十三年二月十七日(木曜日)午前十時二十八分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 前田房之助君

理事坂東幸太郎君 理事最上 政三君

理事江藤源九郎君理事小笠原八十美君

松田 正一君 川合 直次君

釘本 衛雄君 村瀨 武男君

小高長三郎君 坪山 德彌君

曾和 義弑君 伊豆 富人君

塚本 重藏君 松本治一郎君

今井 新造君

出席政府委員左ノ如シ

内閣恩給局長 高木 三郎君

法制局長官 船田 中君

法制局參事官 樋貝 詮三君

大藏政務次官 太田 正孝君

大藏省銀行局長 入間野武雄君

陸軍參與官 比佐 昌平君

海軍參與官 岸田 正記君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

恩給金庫法案(政府提出)

恩給法中改正法律案(政府提出)

庶民金庫法案(政府提出)

無盡業法中改正法律案(政府提出)

○前田委員長 是ヨリ開會致シマス、恩給

金庫法案、恩給法中改正法律案、庶民金庫

法案、無盡業法中改正法律案ヲ議題ト致シ

マス、先ヅ恩給金庫法案、恩給法中改正法

律案ニ付キマシテ、政府ヨリ提案趣旨ノ説

明ガアリマス

○船田政府委員 恩給金庫法案及ビ恩給法

中改正法律案ニ付キマシテハ、先般本議場

ニ於テ一應御説明申上ゲタノデアリマスガ、

更ニ其要旨ヲ申上ゲタイト存ジマス

恩給金庫法案ニ付キマシテハ、既ニ第七十

議會ニ於テ當院ノ御審議ヲ經タモノト殆ト同

一内容ヲ有スルモノデアリマス、隨テ成ベク

説明ヲ簡略ニシテ、足ラザル所ハ御質問ニ

應ジテ御説明ヲ申上ゲタイト存ジマス、恩

給年金擔保金融ノ問題ニ付キマシテハ、大

正十二年現行恩給法制定以前ヨリ、兎角ノ

論議ガ交サレテ居タモノデアリマス、即

チ明治四十三年恩給年金ノ支給事務ガ、大

藏省ヨリ遞信省ヘ移管セラレ、郵便局ヲ通

ジテ支拂ハル、ヤウニナリマシテカラ、支

給廳デアル遞信省ニ於テモ、屢、受給者ト金

融業者間ノ紛争ヲ耳ニシ、實際支給事務ヲ

取扱フ立場ヨリ、何トカ方策ヲ立テネバナ

ラヌコトヲ痛感セラレテ居タノデアリ

マシテ、代理受領ノ形式ヲ以テスル金融關

係ヲ調査シタルコトモ一再デナカッタノデ

アリマス、故ニ大正十二年恩給法制定ノ際

ニモ、之ニ對スル方策ハ主管廳タル恩給局

ニ於テ、種々考慮セラレタノデアリマスガ、

政府部内ニ於テモ中々議論ガ多カッタノデ

アリマス、當時ニ於テハ恩給年金ヲ擔保ニ

供スルト云フコトハ、法ノ禁ズル所デアリ

マシテ、以テノ外ノコトデアルトシテ居タ

ノデアリマスカラ、違反者ニ對シテ制裁ヲ

加ヘルガ宜シイト云フヤウナ議論モ相當

有力デアリマシテ、現ニ恩給法ト同時ニ制

定セラレマシタ宮内省恩給令ノ如キハ、一

種ノ制裁規定ヲ加ヘテ居ルノデアリマス、

併ナガラ政府ハ此ノ問題ハ兎ニ角尙ホ考究

スル餘地モアルデアラウト云フコトデ、一

應從來通り擔保禁止ノ規定ヲ置イタ儘法律

案ヲ提出シタノデアリマスガ、當時衆議院

ニ於テハ「速ニ恩給ヲ擔保トスル金融ニ付適

當ナル方策ヲ講ズベシ」ト云フ意味ノ附帶

決議ヲセラレタノデアリマス、大正十二年

ニ新恩給法ヲ施行スルニ當リマシテハ、總

テ新恩給證書ヲ發行シ、且ツ出來得ル限り

本人直接ニ之ヲ渡スト云フ方針デ、種々手

段ヲ盡シマシタ結果、大部分ノ擔保關係ヲ

一掃スルコトガ出來タノデアリマスガ、之

ニ代ルベキ金融機關ノ設置ナキ爲メ、其後

依然トシテ金融業者ニ依ル擔保金融ガ行ハ

レ、其弊害モ亦一層甚クナッタ感ガアルノ

デアリマス、即チ恩給年金ヲ擔保トスル金

融ガ、漸次惡質ニナツテ參リマシテ、借リル

方モ貸ス方モ惡徳ヲ重ネル傾向ガアリ、甚

シキニ至ツテハ詐欺的行爲ヲ爲ス者サヘ現

ハル、ニ至ツタノデアリマス、二三ノ例ヲ申

上ゲマス、恩給證書ヲ擔保トシテ金ヲ借リ

タ後、幾許モナク支給停止ヲ申請シテ金融

業者ヲ脅カシ、追貸シヲ求メテ、應ジナケ

レバ證書亡失ヲ申立テ、再度證書ノ交付

ヲ申請スルト云フヤウナ借手ノ惡辣ナモノ

モアリ、擔保トシテ交付ヲ受ケタ恩給證書

ヲ同業者ニ轉賣シテ、證書ハ轉々シテ所在

ガ判明セズ、ソレガ爲ニ元本ハ返済シタノニ拘ハラズ證書ハ一生涯返テ来ナイ、是ガ爲メ僅カ三四年分ノ融通ヲ受ケテ、三十年モ恩給ヲ受取ラナイト云フヤウナ、貸手ノ惡辣ナル事例モ少クナカッタノデアリマス

政府ニ於テハ是等ノ實情カラ考ヘマシテ、速カニ何等カノ方策ヲ執ルノ必要アリトナシマシテ、昭和八年恩給法中ノ一部改正案ヲ議會ニ提出スルニ當リマシテ、特殊ノ金融機關ヲ作り、此機關ニ對シテノミ擔保金融ヲ認め、從來ノ弊害ヲ一掃スルト云フ方針ヲ決定シタノデアリマスガ、偶、議會ニ於テモ此ノ狀態ヲ認めラレマシテ、衆議院ニ於テ當該法律案可決ノ際ニ速ニ適當ナル方法ヲ講ゼラレタシトノ希望條件ヲ付セラレタノデアリマス、爾來政府當局ハ銳意準備ヲ致シテ居ッタノデアリマスガ、金融關係、政治關係等ノ原因ニ依リマシテ提案ノ機會ガナク、漸ク第七十議會ニ提案致シタノデアリマスガ、御承知ノ通り委員會ノ審議半バニシテ不幸議會ノ解散ニ遭遇シ、茲ニ再ビ本案ノ御審議ヲ乞フニ至ッタ次第デアリマス

恩給金庫ノ内容ニ付キマシテハ、既ニ御手許ニ差上ゲマシタ恩給金庫設立要綱ニ依リ、御了承ヲ得テ居ルコトト思フノデアリ

マスガ、金庫設立ノ眼目ハ

- 一、恩給金庫ガ經營上立行ク程度ニ於テ成ルベク低イ金利ヲ以テ廣ク受給者ニ貸付ヲ爲スコト
- 二、一面ニ於テ受給者ヲシテ經濟的ノ壓迫ヨリ免ガレシムルト共ニ他面受給者タルノ體面ヲ保タシメ恩給年金給與ノ本旨ヲ維持セントスルコト

以上ノ二點デアリマスガ、尙ホ恩給金庫ハ此擔保貸付ノ外、擔保トシテデハナク單純ナル代理受領ヲモ行ヒ、委託ガアレバ恩給年金受給ニ關スル各種ノ手續等ヲ受給者ニ代ッテ行ヒ、受給者ノ手數ヲ省キ、利便ヲ計ル積リデアリマス、此仕事ハ一見輕微ノヤウデアリマスガ、例ヘバ毎支給期ニ於ケル給與金ノ請求、隔年ニ行ハレル受給權調査ノ爲ニスル戶籍謄本若クハ抄本ノ提出等、交通不便ノ地ニ在住スル受給者乃至婦女子ガ大多數デアアル扶助料權者等ノ爲メ、少カラザル利便ヲ與フルコトト考ヘルノデアリマス、又業務ノ一項目トシテ裁定前ノ貸付ヲ行ハシムル豫定デアリマスガ、今回ノ事變ニ於ケル犧牲者ハ相當ニ多數ニ上ル見込デアリマシテ、既ニ戰死者ノミデ二万ヲ超過スル狀況デアリマス、是等ノ犧牲者ニ對スル恩給扶助料ノ裁定ニ付テハ、當局ニ於

テモ出來得ル限り迅速ニ處理スル積リデアリマスガ、ヤハリ相當ノ日子ヲ要スルカト思フノデアリマス、故ニ正式裁定ヲ經テ給與ヲ受クルニ至ル迄ノ間ニ於ケル生活費ヲ必要トスル場合ニ於テハ、一定ノ制限ノ下ニ僅少ノ手數料ヲ徴シ、恩給金庫ガ前拂ヲ爲ス制度ヲ設ケントスルノデアリマス

更ニ現在恩給扶助料等ハ三月毎ニ給與セラレ、年金ハ半年毎ニ給セラレルノデアリマスガ、都市居住者ニ取ツテハ、三月拂ト云フコトハ甚ダ不利デアリマス、此三箇月間ニ支拂フベキ金ヲ一度ニ受取ル爲メ、或ハ使ヒ過ぎ、或ハ不足トナリ、爲ニ擔保金融ヲ餘儀ナクサレルヤウナ事例モ少クナイト思フノデアリマス、故ニ是等ニ對シテハ受給者ノ希望ニ基キ、僅少ノ手數料ヲ徴シ、金庫ガ立替拂又ハ分割拂ヲ爲スノ制度ヲ行ハシメタイト思ヒマス

此外附帶的ノ事業トシテ、醫療其他受給者ノ福利増進ニ關スル施設ヲモ試ミタラ如何カト存ジマス、尤モ此附帶的ノ事業ハ金庫ノ餘剩資力ノ如何ニ關係ガアリマスノデ、直チニ實行ハ困難カト存ジマスガ、成ベク速ニ行ハシメタイト思ヒマス

以上ニ述ベタ所ニ依リ概ネ御了解ヲ得タコトト存ジマスガ、恩給金庫ノ業務ハ主ト

シテ恩給年金受給者ノ福利増進ニ貢獻セントスルモノデアリマシテ、其目的ハ公益的デアリ、金庫自體ハ何等營利ノ觀念ヲ含ンデ居リマセズ、隨テ單ニ擔保金融ノミヲ目的トスル機關トハ、本質相容レザルモノデアリ、又對象ヲ異ニスル庶民金庫、産業組合トモ全く別個ノ意義ヲ有スル特殊ノ機關ナルコトヲ附加ヘテ申上ゲテ置キマス

恩給金庫ノ資本金ハ三千万圓トシ、初年度ニ於テハ五分ノ一ヲ拂込マシメ、爾後必要ニ應ジ拂込ヲ爲サシムル豫定デアリマス、全額拂込ト致シマセヌノハ、金庫ハ恩給債券ノ發行權ヲ有シテ居マスノデ、債券ノ發行又ハ借入金ニ依リ、資金ヲ運轉スル方ガ金利ガ安ク、隨テ貸付利率モ低クスルコトガ出來ルカト思フノデアリマス、要スルニ出資ハ金庫ノ財の基礎ヲ確立スル程度ニ止メテ宜シイカト存ジマス、又出資ハ出來得ル限り事業ノ本質ニ理解アル方面ヨリ之ヲ求メ、比較的低位ニ致シタイト存ジマスガ、拂込ノ義務ヲ負ハシムル關係上、出資ニ對シ剩餘金配當ヲ相當ニ致サネバナラヌカト考ヘラレマス、尤モ政府ノ出資ニ對シテハ、當分配當ノ免除ヲ受ケルコトト致シタイト存ジマス、次ニ金庫ガ確實性ヲ有スルト云フニトハ金庫ノ信用ヲ増大シ、隨テ金利ノ

安イ金ヲ求メ得ラレ、其結果又受給者ニ安  
イ金ヲ貸付ケ得ル譯デアリマスカラ、基礎  
ノ確立ト云フコトガ一番大切デアルト存ジ  
マス、國家ハ金庫ニ對シ特別ノ監督ヲ致ス  
積リデアリマス、即チ内閣總理大臣ト大藏  
大臣トガ監督ヲ致シ、特ニ監督官ヲ設ケ業  
務及ビ會計ヲ監督シ、以テ金庫ノ基礎ヲ安  
固ナラシムルト共ニ、公益ニ副ハシメント

スルノデアリマス、金庫ノ役員ハ理事長、  
理事、監事等ヲ置クコトハ、産業組合中央  
金庫等他ノ諸金庫ト同様デアリマスガ、其  
他ニ評議員二十人以内ヲ置クコトニ致シテ  
居リマス、此評議員ハ業務經營ニ關スル重  
要事項ニ付、理事長ノ諮問ニ應ジ意見ヲ述  
ベ、又進ンデ意見ヲ述ベルコトガ出來ルヤ  
ウニナツテ居リマスガ、會社ニ於ケル株主總  
會ニモ該當スルヤウナ組織ニ致シタイト考  
ヘテ居リマス、隨テ公平ナ立場デ利用者ノ  
利益モ、恩給年金ノ本質モ、又出資ノ安固  
ヲモ考ヘ、且ツハ之ヲ保護スル目的ニ適フ  
ヤウナ方々ヲ選任シタイ希望デアリマス  
尙ホ恩給年金等ハ公法上ノ給與デアリマ  
シテ、特別ノ性質ヲ有シテ居リマスカラ、  
ソレ等ノ關係ヲ明カニスル爲メ法案第四章  
ニ特別手續ヲ規定致シテアリマス  
終リニ恩給金庫ノ設立ノ爲メ設立委員ヲ

設ケ、之ヲシテ定款ノ作成ヲ初メ諸般ノ設  
立行爲ヲ爲サシメタル上、之ヲ恩給金庫ニ  
引繼ガシムル豫定デアリマス、金庫ハ時局  
ニ鑑ミマシテ一日モ早く成立セシムル必要  
ガアリマスノデ、可及的設立準備ヲ取急ギ、  
本年七月初メヨリ事業ヲ開始セシムル豫定  
デアリマス

次ニ恩給法中改正法律案ニ付御説明申上  
ゲマス、第一ハ只今御説明申上ゲマシタ恩  
給金庫法案ト關聯シ、恩給法第十一條第一  
項ニ規定スル擔保禁止ヲ、恩給金庫ニ限り  
解除スルト共ニ、從來ノ恩給擔保金融ニ伴  
フ弊害ヲ除去スル爲メ、法規ニ違反シテ恩  
給金庫以外ニ擔保ニ供シタル場合ハ、恩給  
ノ支給ヲ差止メントスルノデアリマス、此  
ノ點ニ付キマシテハ、恩給金庫法案ヲ御説  
明致シマシタ際詳細申上ゲタ所デアリマス  
ガ、恩給擔保金融ガ段々惡質トナツテ參ル傾  
向ガアリ、借方ニモ甚シキ惡徳ヲ行フ者ガ  
絶エナイ状態デアリマシテ、恩給年金受給  
者ノ品性ノ點ヨリモ、洵ニ嘆ハシキ次第デ  
アルト考ヘルノデアリマス、既ニ恩給金庫  
ヲ創設シタル以上、敢テ違反シタルコトヲ  
知りナガラ、之ヲ擔保ニ供スルガ如キハ、  
嚴ニ戒メザルベカラザル事柄カト考ヘルノ  
デアリマス、現ニ宮内省恩給令ノ如キモ、

違反者ニ對シテハ恩給ノ支給ヲ差止メル旨  
ノ規定ガアルノデアリマスカラ、今回ノ改  
正ニ當リマシテ同様制裁規定ヲ加ヘタノデ  
アリマス、此制裁規定ハ一面ニ於テ受給者  
ノ惡徳ヲ矯メルト共ニ、他面恩給金庫ノ基  
礎ヲ確立セシムルノ效果ガアルノデアリマ  
ス、即チ折角國家ガ特ニ金融機關ヲ作ツテ、  
受給者ノ爲メ已ムヲ得ザル場合ノ擔保金融  
ノ途ヲ開イテモ、尙ホ從來通り一般金融業  
者ノ脱法的金融ヲ默認スルコトニナリマス  
レバ、金融業者ハ自己ニ利益ナル部分ノミ  
ノ金融ヲ行ヒ、老年者、弱者、遺族孤兒  
等、金融業者側ヨリ見レバ不利益ナル部類  
ニ屬スルモノノミ恩給金庫ニ集ルコトナ  
リマシテ、到底立行カナイノデアリマス、  
仍テ恩給年金本來ノ性質論及ビ金庫ノ基礎  
維持ノ兩面ヨリ、第二項ノ規定ヲ入レタノ  
デアリマス、尙ホ序ニ申加ヘマスガ、恩給法  
中ニ規定アル支給ノ停止ト、恩給ノ停止ト  
ハ性質ガ違フノデアリマシテ、恩給ノ停止  
ト云フノハ、其ノ停止期間ニ屬スル部分ハ  
全然恩給ヲ與ヘナイノデ、他日停止條件ガ  
ナクナリマシテモ、停止期間中ノ恩給ハ追  
給シナイノデアリマスガ、支給ノ停止又ハ  
差止ト云フノハ、現實ニ金ヲ給與シナイデ  
留保スルダケデアリマスカラ、後デ差止原

因ガナクナレバ、差止ラレタ期間ノ分モ本  
人ニ渡ス立前デアリマス  
第二ニ本改正案中最モ重要ナル點ハ増加  
恩給、傷病年金及遺族扶助料ノ増額デアリ  
マス、先ツ増加恩給及ビ傷病年金ノ増額ニ  
付申上マスト、別表第二號表及ビ第三號表  
ヲ改正致シマシテ相當ノ増額ヲ行ヒ、傷痍  
軍人ノ優遇ノ實ヲ擧ゲントスルモノデアリ  
マスガ、改正ノ要點ハ  
一、増加恩給ハ成ルベク下ニ厚クスル趣  
旨ニ依リ將官ニ對シテハ全ク増額セズ  
佐官以下ニ對シテ輕重ニ從ヒ適當  
ノ増額ヲ行フ、即チ佐官ノ階級ニ於テ  
ハ第三項以上ノ高症者ニ對シテノミ増  
額シ、尉官以下ハ各項ニ互リ増額ヲ行  
フモ第三項以上ノ高症者ニ厚カラシム  
一、増加恩給ヲ給スベキ不具廢疾ノ程度  
ヲ特別項ノ外第一項乃至第七項トシ概  
ネ從來ノ傷病年金第一款程度ノ症狀ヲ  
第七項トス  
一、傷病年金ヲ給スベキ傷病ノ程度ヲ第  
一款症乃至第四款症ニ分ツコト從來ト變  
リナキモ、從來ノ第二款症乃至第四款  
症程度ノ症狀ヲ第一款症乃至第三款症  
ニ繰上ゲ且ツ其給額ヲ増加シ増加恩給  
受給者トノ給額ノ懸隔ヲ少ナカラシムル

ト共ニ從來ノ傷病賜金第一目及び第二目程度ノ症狀ヲ第四款症ニ繰上グ

一、傷病賜金ハ從來ノ第三目乃至第六目ヲ其金額ヲ變更セズシテ第一目乃至第四目ニ繰上グルノ外變更ナシ

以上ノ如ク增加恩給及び傷病年金ノ増額ハ、現行法ノ增加恩給ト傷病年金、傷病年金ト傷病賜金トノ關係ヲナガラカニスル目ノヲ以テ立案シ、之ニ加フルニ上ニ薄ク下ニ厚ク、及び高症者優遇ト云フコトヲ眼目ト致シタノデアリマス、遺族扶助料ニ付テハ、最モ優遇ヲ必要トスルモノデアリマシテ、其増額率ハ從來其比ヲ見ザル程ノ高率デアリマス、即チ從來第七十五條第二項ノ受給權者死亡後五年間三割加給ノ制ヲ廢シ現在ノ扶助料年額ニ對シ

- 一、戰死者準戰死者遺族ニ對シテハ第五號表ニ依ル率ヲ乘ジタル金額
- 二、普通公務死者遺族ニハ前號ノ金額ノ十分ノ八ニ相當スル金額
- 三、增加恩給受給者遺族ニハ第一號ノ金額ノ十分ノ六ニ相當スル金額

ヲ給シ、更ニ遺族ノ生活實情ニ即セシムル爲メ遺族ノ員數ニ應スル加給制度ヲ創設シ第五號表ニ依リ算出シタル金額ニ、更ニ是亦下ニ厚キ主義ヲ採ル第八號表ノ區分ニ依

リ、一定ノ率ヲ乘ジタル金額ヲ加給スルコトト致シタノデアリマス、故ニ一例ヲ云ヘバ陸軍二等兵ノ戰死者遺族扶助料ハ、現在年額百五十圓デアリマスガ、改正法ニ依リマスト家族二人ノ場合ハ年額二百七十圓、三人ノ場合ハ三百三十八圓、四人ノ場合ハ三百六十五圓、五人以上ノ場合ハ三百九十二圓トナリ、現行額ニ對シ最高十六割一分ノ増率トナルノデアリマス、尙ホ家族加給ノ基礎トナルベキ遺族ノ意義ニ付キ疑義ヲ生ズルコトヲ惧レ、第七十五條中ニ之ニ關スル規定ヲ置キマシタ

次ニ第十六條、第二十四條、第五十九條、第六十二條等ハ學校名ノ變更ノ爲メ文字的整理ヲ致シタノデアリマス、又第二十四條ニ新ニ加ヘマシタ第五號ハ、行政權移讓後在滿學校組合待遇職員ヲモ恩給法上ノ待遇職員トシテ取扱フノ趣旨デアリマス、第四十六條ノ二第一項及び第六十六條第一項中「二年」ヲ「三年」ト改メマシタノハ、現行法ニ於テハ傷病年金及び傷病賜金ハ、下士官以下ノ軍人ニ付テハ、退職後一年内ニ公務ニ基因シテ兵役ヲ免除セラレルコトヲ要件ト致シテ居リマスノデ、往々此恩典ニ洩レルモノガアリマスノデ、之ヲ退職後三年内ニ改メタノデアリマス、第五十九條ノ二ヲ改メ

マシタノハ恩給ノ算出スル基礎トナル俸給ニ關シ、現行法デハ不備ナ部分ガアリマスノデ、序ニ之ヲ改メントスルノデアリマス、第六十五條第一項ニ新ニ加ヘマシタ但書ハ、從來增加恩給ヲ給セラルベキ程度ニ達シタル軍人ニシテ、其儘現役ニ在職致シマシテ十數年乃至二三十年モ經過シタル後ニ退職致シマス、其增加恩給ハ、退職當時ノ階等ニ依ル額ヲ給セラル、コトトナリマシテ、負傷又ハ罹病後直チニ退職シタル者トノ間ニ、甚シキ不權衡ヲ生ズル實例ガアリマシタノデ、之ヲ改正シ、負傷又ハ罹病後五年以内ニ退職セザル者ハ、負傷又ハ罹病後五年ヲ經過シタル日ニ於ケル階等ニ應ズル增加恩給ヲ給シ、以テ給與ノ公平ヲ保タントスルモノデアリマス、第六十五條ノ二第一項ニ新ニ但書ヲ加ヘマシタガ、是ハ本改正案ニ依リマス、增加恩給第七項ノ額ハ、傷病年金第一款ノ額ヨリ少額デアリマシテ、若シ傷病年金第一款症ニ該當スル者ガ、普通恩給ヲ併給セラル、場合ニ於テハ、增加恩給第七項症ニ該當スル者ガ普通恩給ヲ併給セラル、場合ヨリ、多額ヲ給セラル、コトトナリマスノデ、其ノ矛盾ヲ避クル爲メノ規定デアリマス、第六十六條ノ二ヲ新ニ加ヘマシタノハ、下士官以下ノ軍

人ガ、傷病賜金ヲ受クベキ程度ノ傷痍ヲ受ケ、又ハ疾病ニ罹リ、一旦傷病賜金ヲ受ケタル後、爾後重症ニ陥リ、再審査ノ結果、增加恩給又ハ傷病年金ヲ給セラル、場合ニ於キマシテハ、傷病賜金ヲ受ケズシテ、直チニ增加恩給又ハ傷病年金ヲ受ケタル者トノ權衡上、一定ノ條件ノ下ニ曩ニ受ケタル傷病賜金ヲ返還セシムル方ガ、給與ノ公平ヲ保ツ所以デアルト存ジ、此規定ヲ置イタノデアリマス、第九十一條第一項ノ改正ハ、滿洲國ニ於ケル帝國ノ行政權移讓ニ伴フ字句修正デアリマス、尙ホ附則中ニ、第七十議會ニ提案シタル事項デアリマスガ、二ツノ新タナル條項ヲ規定致シテ居リマス、其一ツハ大正十二年ノ恩給法施行マデハ、軍人ハ現役ニ居ル間ニ入籍シ兵籍簿ニ登錄サレタ妻デナイト、扶助料權ガナカッタノデアリマスガ、大正十二年恩給法制定ノ際、兵籍簿ノ登錄ハ、扶助料請求ノ要件トシナイコトニナッタノデアリマス、又父母、祖父母モ同様、現役ニ在ル間ニ同シ家ニ居ナクテモ、公務員死亡ノ當時、同一戶籍内ニ居レバ宜イト云フコトニナッタノデアリマス、併シ是等ノ規定ハ、當時不遑及ノ原則ヲ採ラタノデ、大正十二年恩給法改正以後ノモノノミ適用セラレタノデアリマス、併ナガラ

戰鬪又ハ戰鬪ニ準ズベキ公務ニ付レタル者

ノ遺族乃至増加恩給受給者ノ遺族ニ付キマシテハ、甚ダ氣ノ毒ナ事情ニアル者ガ多イノデアリマスカラ、是等ノ者ニハ將來現行

法ト同様ニ取扱フト云フ趣旨ノ改正デアリマス、今一ツノ新ラシキ條項ハ北海道廳森

林監守デアリマス、是ハ大正十二年恩給法改正當時待遇職員トシテ、存在シテ居ッタナ

ラルノデアリマスガ、恩給法改正當時ハ名ガ變ッテ居リマシタノデ、適及適用ガナカッ

タノデアリマスガ、實質的ニ見テ北海道廳森林監守ハ、恩給法上ノ他ノ待遇職員ト何

等區別スルノ理由ナク、是ガ在職年ヲ除外スルノハ非常ニ同情ニ堪ヘマセスカラ、今

回一定ノ條件ノ下ニ將來ニ向ッテ其在職年ヲ恩給法上ノ在職年ト見テヤルト云フ意味

ノ改正ヲ行ハントスルノデアリマス以上改正ノ要點ヲ概略申上ゲタノデアリマスガ、増加恩給及ビ扶助料ノ改正増額ハ、

昭和十三年四月一日カラ之ヲ行フコトシ、尙ホ若干ノ經過規定ヲ附則トシテ附加ヘタ

提案趣旨ノ説明ガアリマス

○太田政府委員 本委員會ニ付託セラレマシタル庶民金庫法案及ビ無盡業法中改正法律案ニ付、御説明申上ゲマス

先ヅ庶民金庫法案ニ付キテ其概略ヲ御説明致シマス

庶民金庫ノ目的ニ付キマシテハ、本會議ニ於テ御説明申上ゲマシタ通り、既設金融

機關等ニ依リマシテハ、十分ナル金融ニ惠マレ得ナカッタ階級、就中小小産業者及ビ勤

勞所得者等ニ對シマシテ、對人信用ニ依ル小口金融ノ圓滑ヲ圖リ、以テ其生活ノ安定

ニ資セントスルニアルノデアリマス、此ノ目的ヲ達成センガ爲ニ、本金庫ハ純然タル

非營利ノ特殊法人ト致シ、資本金一千万圓ハ、其金額ヲ政府出資トシ、剩餘金ノ配當

ハ之ヲ行ハヌコトト致シタノデアリマス、本金庫ノ貸付資金ハ、庶民債券ノ發行ニ依ッテ、之ヲ調達セシムルコトニ致シタノデアリ

マスルガ、其發行限度ハ拂込資本金ノ十倍トシ、預金部其他ニ於テ之ヲ引受ケマシテ、

同様に貸付ヲ行フ場合、該金融機關ニ對シ、其貸付資金ヲ融通シタリ、又ハ其貸付ニ付損

失補償ヲ行フコト、本金庫ト取引ヲ有スル者ノ預金ヲ受入ル、コト及ビ以上ノ業務ニ

附隨スル業務ニ限定致シマシテ、専ラ庶民金融ヲ圓滑ナラシムルコトニ努力セシムル

コトト致シタノデアリマス、本金庫ノ主タル事務所ハ之ヲ東京ニ置ク豫定デアリマス

ルガ、其ノ業務ヲ出來得ル限り速ニ普及徹底セシムル爲メ、差當リ大阪ニ支所ヲ、又、

必要ニ應ジ各所ニ出張所ヲ設置スルノ外、銀行、無盡會社、市街地信用組合ニモ、其

業務ノ一部ヲ代理セシムルコトト致シタノデアリマス、政府ハ本金庫ノ使命ノ重大性

ニ顧ミマシテ、之ニ對スル監督ニハ特ニ周到ヲ期シマスルト共ニ、資本金ノ全額出資、

租稅ノ減免、補助金ノ交付等助成ノ方途ヲモ講ジテ居ル次第デアリマス

次ニ無盡業法中改正法律案ニ付テ御説明申上ゲマス

本改正案ハ大體本會議ニ於テ御説明申上

ゲマシタ通り、無盡會社ノ信用ノ向上ヲ圖リ、且ツ益、其ノ機能ヲ發揮セシムルコ

トヲ目標ト致シタモノデアリマシテ、是ガ爲メ現行無盡業法中、無盡會社ノ最低資本

金三万圓ヲ十萬圓ニ、拂込金額一萬五千圓

ヲ五萬圓ニ引上ゲ、合併手續ノ簡易化ヲ圖リ、又給付金限度貸付ノ總額ニ對スル法

定制限ヲ廢シ、之ニ代フルニ擔保又ハ保證ニ關スル規定ヲ設クル等ノ改正ヲ行ハント

スルモノデアリマス、尙ホ是等ノ改正ニ伴ヒマシテ猶豫期間其他ノ經過規定ヲ設クル

コトト致シタ次第デアリマス、何卒十分御審議ノ上御贊成アラントラ御願致シマス

○前田委員長 此際政府ニ對シ參考資料ヲ要求ノ方ハ、一ツ御要求願ヒタイト存ジマス

○坂東委員 恩給ノ再交付ニ關スル勅令竝ニ閣令ノ全文、再交付ヲ要求シタ人員數竝ニ其金額、及ビ再交付ヲシテシマッタ各人名竝ニ其各別ノ金額、ソレカラ現在軍人後

援會竝ニ其他ノ一般金融業者ノ、其金融シ

テ居ル金額、竝ニ大部分保險ヲ付ケテ居リ

マセウガ、其保險ヲ付ケテ居ル保險ノ金額、

ソレダケヲ各、御願致シマス

○江藤委員 若干參考資料ヲ御願シタイト

思ヒマスガ、是ハ書類ヲ以テ提出致シタイト

ト思ヒマス

○前田委員長 承知致シマシタ

○最上委員 私ハ二點ダケ政府ニ參考資料

ヲ要求シタイト思ヒマス、第一點ハ日清、日露、日獨、滿洲事件及ビ今回ノ事件ニ對

スル戦死者ノ一時賜金、其内容ハ尉官級以下デアリマス、私ノ知リタイト云フノハ特ニ下士、兵デアリマスカラ、其點御諒承ノ上デ御願シマス、一時賜金ト申シマシテモ吾々通例一時賜金ト申シマスルト、全部ヲ包含シテ解釋スルノデアリマス、隨テ實際ハ其中ニハ特別賜金、又俸給令ニ依ル所ノ死亡賜金、埋葬料、又各師團及ビ聯隊ニ於テ支給サレル幾許カノ金ガアルノデアリマセウカラ、ソレガ若シ總括シテ居ルナラバ總括シテ居ルト言ッテ、其内容ヲ一々内譯ヲ願ヒタイノデアリマス、隨テ是ハ各戰役ノデアッテ、多少其時期又勳功ノ程度如何ニ依ッテ違フデアリマセウカラ、一、二、三位ニ之ヲ平均ニシテ戴クトカ、又滿洲事件ノ如キノデアリマス、隨テサウ云フヤウナコトモアルデアリマセウカラ、ソレ等ヲ明細ニ分ルヤウニ調査シテ御報告願ヒタイノデアリマス

第二ハ現在庶民金融トシテ大藏省ニ於テ認メテ居ル既設ノ施設、例ヘテ申シマスレバ産業組合中央金庫デアルトカ、農村負債整理組合ト云フヤウナ各種ノ機關ノ種類竝ニ其設立月日或ハ資本金額等モ附加ヘテ大要デス、マア吾々が解釋スルノト大藏當局ノ解釋スルノト、庶民金融ノ施設ノ解釋ハ違フデアリマセウガ、大藏當局ハドウ云フヤウナ施設ヲ、現在庶民金融トシテ見テ居ルカト云フコトヲ種類及ビ其大要ニ付テ御報告ヲ願ヒタイノデアリマス、私ノ參考資料ハ以上二點デアリマス

○塚本委員 ソレニ一寸關聯シテ……、只今御要求ニナリマシタ資料ノ外ニ、特ニ質屋ノ中、公益質屋ト一般民間ノ質屋トノコトヲモ調査シテ附加ヘテ戴キタイト思ヒマス

○會根委員 私ノ要求シマスノハ、或ハ坂東君ノ要求シタ中ニアルト思ヒマスガ、若シナケレバ御願シタイ、昭和十年末現在ニ於テ代理受領人員ガ五万四千二百八十九人、代理受領年金額ガ一千八百七十一万圓デアリマス、是ハ最高ドレ位ノ人以下デアルカ、大體ニ於テドレ位ノ金額以下ノ恩給ヲ貰フ人が多イノカ、ソレヲ承リタイト思ヒマス

○坂東委員 一寸附加ヘマシガ、現在ノ恩給受給者ノ人員、金額、ソレハ無論出マセウケレドモ、即チ恩給局長裁定ノ分ト然ラザル分ト、竝ニ地方費ノ分及ビ市町村ノ分、其人員ト金額、ソレカラ今一ツハ此恩給ノ擔保ノ解釋ニ付テ大審院ノ判例ガアツタ、即チ擔保ハ無効デアルト云フ判例、竝ニ擔保ニ供スルト云フコトハ詐欺ノ手段デアル所ノ借リタガガ犯罪ニナツタ判例モアルヤウデス、其判決ノ全文ヲ御願シマス

○前田委員長 外ニアリマセヌデスカ——ソレデハ御諮リ致シマスガ、恩給法中改正法律案、恩給金庫法案、之ヲ一括シテ先ヅ質疑ヲ行ヒ、大體ノ質疑ガ終ツタ後ニ庶民金庫法案、無盡業法中改正法律案ヲ一括シテ質疑ヲ行フ、斯ウ云フ風ニ審議ヲ進メタイト思ヒマスガ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○前田委員長 御異議ナシト認メマス、ソレデハ本日ハ是ニテ散會致シマス、次會ハ公報ヲ以テ御通知申上ゲマス

午前十一時六分散會

- 〔參照〕
- 江藤委員要求ノ參考資料
- 一、恩給又ハ勳章年金ヲ擔保トシテ義濟會及軍人後援會ヨリ金融ヲ受ケ居ル者ノ人員及金額
  - 二、恩給又ハ勳章年金ヲ擔保トシテ義濟會及軍人後援會以外ノ金融機關ヨリ金融ヲ受ケ居ル者ノ人員及金額ノ見込數(代理受領ノ關係ニテ調査スル事ヲ得ベシ)
  - 三、義濟會、軍人後援會及金融ヲナス主ナル組合ノ利率
  - 四、左ノ區分ニ依ル最近一箇年ノ受恩給調査
    - 1 一般公務員(軍人ヲ除ク)ノ受恩給人員及金額
    - 2 軍人(傷痍軍人ヲ除ク)ノ受恩給人員及金額
    - 3 傷痍軍人ノ受恩給人員及金額
    - 4 一般公務員ノ遺族扶助料受給者人員及金額
    - 5 戰傷公病死者(軍人)ノ遺族扶助料受給者人員及金額
    - 6 特殊銀行ノ不動産擔保ニ依ル金融利率
    - 7、最近ニ於ケル目症者人員(各自別)及第一款症者ノ人員數
  - 八、昭和九年四月一日以前ノ無償傷痍軍人ニシテ目症該當者ニ對シ軍人傷痍記章ヲ授與シタル員數
  - 九、昭和九年四月一日以前ノ無償傷痍將校ニシテ目症該當者ノ故ヲ以テ軍人傷痍記章ヲ授與シタル員數
  - 一〇、第一項症ヨリ第四款症ニ至ル兵ノ受クル増加恩給額ノ比率(新舊對照)
  - 一一、増加恩給及傷病年金年額ノ階等比率(新舊對照)